

財団法人東方研究会 / 東方学院

東方だより

第九号

〒101-0021
東京都千代田区外神田2-17-2
延寿お茶の水ビル 4階
TEL 03-3251-4081
FAX 03-3251-4082
URL <http://www.toho.or.jp>

新体制のお知らせ

財団法人東方研究会では、平成十八年六月に開催された役員会において、中村洛子前理事長を、新たに創設された終身名誉理事長とし、以下、前田専學前常務理事を理事長とし、常務理事として新たに奈良康明氏を迎えることが決定されました。

それに伴い、左記の如く人事を刷新いたしましたので、ここに報告申し上げます。

- | | |
|------------|------|
| 終身名誉理事長 | 中村洛子 |
| 理事長・東方学院院长 | 前田専學 |
| 常務理事 | 奈良康明 |
| 総務・事務局長代行 | 三木純子 |

役員からのご挨拶

終身名誉理事長



中村 洛子

財団法人東方研究会・東方学院の創立者である中村元の遺志を引継ぎ、平成十一年から理事長を勤めさせていただきましたが、このたび、前田専學常務理事に後任を託し、名実共に理事長職をお願いすることとなりました。

この間、皆様より温かいご協力とご支援を賜りましたことにあらためて感謝いたしますと共に、新しい体制の下、今後とも変わらぬご助力とご声援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

近年、財団法人の運営に当たりましては困難な状況が続いておりますが、財団法人東方研究会・東方学院がますます発展していきま

理事長 / 東方学院院长

前田 専學



昨年の六月、中村洛子理事長から、ご健康上の理由によるご退任のお申し出がありましたので、理事会でお諮りいたしました。その結果、中村洛子理事長を終身名誉理事長として引き続きご指導をうけることにし、浅学非才の小生が第三代目の理事長に、奈良康明監事が、常務理事に、三木純子総務が事務局長代行にそれぞれ就任し、新しい体制が発足いたしました。この機会に皆様方にご挨拶を申し述べたいと思っております。

ご承知のように、財団法人東方研究会は、昭和四五年、中村元初代理事長によつて、「東洋思想に関する研究調査を行い、あわせてこの分野に関する研究を助成し、その研究成果の普及を図り、もつて学術、文化の発展に寄与すること」を目的として設立された文部科学省所轄の研究所以あります。現在、三六名の研究員を擁し、全員修士号を得ており、そのうちの一二名は博士号をもっている優秀な人材の宝庫で、研究員の研究成果は、研究誌『東方』などに毎年発表され、斯学の発展に寄与しています。本研究会はまた、大学や研究所へ人材を供給する重要な役割を果たしており、かつて本研究員として研究を進め、現在は東京大学、東北大学、筑波大学、信州大学、東洋大学、駒澤大学などの諸大学や研究所で活躍している「連携研究員」の数は八二名に達しています。また、広

新体制のお知らせ / 役員からのご挨拶

く学界において、斯学の発展に顕著な功績のある研究者には、毎年、駐日インド大使と共同で、「中村元東方学術賞」をインド大使館で授与しております。

先見の明がおりになった創立者中村元先生は、それだけでは満足されず、「研究成果の普及」の重要性を強調され、その手段としてこの財団法人東方研究会を母胎として、昭和四八年に東方学院を設立されました。日本における学界の国会といわれる日本学術会議などでは、最近になってようやく研究成果の社会的還元を強調するようになってまいりましたが、先生は三五年も前から実践されておりました。東方学院は、一般の公開講座とは異なり、「真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という先生の堅い信念から、いわば現代の「寺子屋」として出発しており、報酬を度外視して真に教えたい先生方が講師を務め、年齢・性別・学歴などにこだわらず真に学問を愛する人のために開かれた大学院といった性格を持っています。従って東方学院では、受講生とはいわれないで、「研究会員」と申しています。

研究会員は現在二〇〇名を超えており、東京はもちろん、沖縄県、徳島県、新潟県、長野県、栃木県、京都府、北海道などからも来ておられ、中には研究会員になって三一年という方もおいでになります。現役の大学生から、八六歳の方にいたるまで、男性も女性も、驚くほど熱心で、職業をもった方もおられますが、最近では停年後の六〇台の男性がやや増えているように思われます。

現在、小生は、財団法人東方研究会の総括研究員として、研究員の研究活動を統括し、また学院長として東方学院の運営の責任を負っております。しかしグローバル化の中で日本の社会が大きく変わりつつある現在、急速に変動しつつある諸般の事情は、小生とき非力な者には

背負いきれないほど日増しに厳しくなってきました。そのような折に、奈良康明先生が常務理事として小生をお助け下さることとなり、大変に心強く、また有り難く存じております。この困難な時代を二人三脚で、役員の方々並びに三木純子事務局長代行をはじめとする事務局員諸氏の協力をえて乗り切りたいと切望しております。

高邁な中村先生の理想を継承・発展させるためには、何としても皆様方の積極的な協力が必須不可欠でございます。今一層のご支援・ご鞭撻を願ひしてご挨拶といたしたいと思います。

常務理事

奈良 康明



東方研究会を開創された中村元先生のウィジョンは、今日も十二分の意味を持っていきます。一つには総合的な東洋文化研究の進展をはかる、ということがあります。この点では日本の各大学と較べても、本研究会に所属する研究者の数、学問分野の広さ、かつ機関誌『東方』を中心とする成果は際だつていると思います。

二つには研究者の育成ですが、今日若手の研究者が大学ないし研究所等に定職を得ることはきわめて難しい時代になっています。大学院を出てすぐに研究者としての専門職を得られるものはありません。それぞれにアルバイトをしたりして生活を支えながら、歯を食いしばって研究を続けている若手研究者は少なくありません。そして縁あって大学等に職を得て転身していくのですが、その際、大学院を出て職を得る

までの経歴が何時も問題となります。研究者としての経歴が続いていないと、就職はまず不可能です。その意味で東方研究会は熱意ある研究者の論文発表の基礎資格を与え、実質的に研究者としての経歴を続けさせてきました。こうして辛苦の下積み生活を送りながら、チャンスに恵まれ、研究者としての専門職を得た学者の数は、前田理事長の挨拶にもあるように、八十名を超えています。

そしてさらに中村先生の学問の普及への熱意があります。研究者が自由に講義し、聞きたいものが誰でも受講できる。これは学問の自由の保証であると同時に、学問の開放でもあります。今日の生涯教育の潮流にも見事に同調しています。東方研究会が主催する東方学院で学ぶ研究会員が二百名を越えるのも時代の要請にあつてからで、中村先生の先見の明が讃えられるべきでしょう。

中村元先生が亡くなられて七年余になります。東方研究会はその間、中村洛子理事長の時代を経、今、前田専學理事長の時代になりました。時代がかわり、社会状況も変化しています。東方研究会もいろいろな意味で曲がり角にありますし、新たな熱意をもって中村先生の理想とされたところの実現に努めなければなりません。

今回、はからずも、常務理事として前田専學理事長を扶けて、東方研究会の活性化のためのお手伝いすることになりました。どれほどのことが出来るかは判りませんが、誠意を尽くして与えられた仕事をするつもりです。

関係者の方々のご協力のほど、お願い申し上げます。

新春会

三月十四日(火)、東京都文京区湯島の東京ガーデンパレスにて当財団主催の講演会および新春祝賀会が開催されました。

講演の部では、初めに当財団の林慶仁研究員による「チベット仏教の昨今」と題する講演が行われました。

次いで、慶應義塾大学教授・グローバルセキュリティ研究所所長であり、前駐日インド大使でもあるアフターブ・セトト氏による「日印文化交流と日本無罪論を主張したパール博士」と題するご講演が行われました。

その後、会場を同ホテル内の別室に移し、新春祝賀会が〇〇名近い方々のご列席の下、盛大に開催されました。



東方学院ガイダンス

四月三日(月)、当財団ならびに東方学院東京本校の近くにある、神田明神内の明神会館において、新研究会員を対象とするガイダンスが開催されました。

参加者は前田専學東方学院院长をはじめとする各講師および新研究会員諸氏、合わせて約九十名でした。

第二回 清水寺仏教文化講座

五月二十一日(日)、鳥根県安来市清水町の瑞光山清水寺様との共催、安来市教育委員会のご後援により、第三回目となる清水寺仏教文化講座が同寺内の光明閣において開催されました。

このたびの講座は、故中村元博士の七回忌記念出版である『構造倫理講座』(全三巻)の刊行にあわせ「東洋の倫理」をテーマに掲げました。初めに当財団の森和也研究員により「武士道と仏教との交錯 戦闘者の倫理から治者の倫理へ」と題する講演が行われ、続いて前田専學理事長・東方学院院长によって「如何に生きるべきか 仏教の倫理」と題する講演が行われました。

平成十八年 活動報告

世界思想史研究会

当財団の研究員と研究会員を中心とする自主研究会である世界思想史研究会が、昨年に引き続き開催されました。本年も昨年と同じく、世界の思想史に関する研究に取り組みました。

*参加を希望される方は事務局までお問い合わせください

『東方』第二十一号(中村元博士七回忌記念号) 刊行

二月、当財団の機関誌『東方』の第二十一号が刊行されました。今号は「中村元博士七回忌記念号」と題し、インドのニューデリーで開かれた中村元博士のご業績を顕彰するための国際会議である「日印仏教哲学セミナー」の記事などを特別に収録いたしました。

第十六回 鎌倉夏期宗教講座

八月二十八日(月) 神奈川県鎌倉市にある鶴岡八幡宮直会殿において、鶴岡八幡宮のご協力とNHK学園のご後援により、第十六回鎌倉夏期宗教講座が開講されました。

今回は岡田明憲先生(マズダ・ヤスナの会代表・元和光大学人文学部講師)による「ペルシア宗教の東伝」と題するご講演、及び、立川武蔵先生(愛知学院大学文学部教授・国立民族学博物館名誉教授)による「マンダラと浄土 ブッダイスとセオロジの試み」と題するご講演が行われました。また、立川先生のご講演の後には、参加者との間に活発な議論が交わされました。

なお、岡田・立川両先生のご講演の内容は、次回発行の機関誌『東方』第二十二号に掲載いたします。



今回は、両先生を囲んでの質疑応答の時間が設けられ、参加者との間に活発な議論が交わされました。

なお、岡田・立川両先生のご講演の内容は、次回発行の機関誌『東方』第二十二号に掲載いたします。

第十六回 中村元 東方学術賞 授賞式

当財団の創立者である、故中村元博士が、顕著な功績のある研究者を顕彰することを目的として設立した中村元東方学術賞の第十六回（平成十八年度）の受賞者が、委員会による選考の結果、東京大学大学院教授である末木文美士博士に決定し、その授賞式が中村元博士のご命日である十月十日（火）、東京都千代田区にあるインド大使館の講堂において行われました。

今回の受賞者である末木博士は、日本仏教の研究において優れた研究業績をあげておられ、それが授賞の理由となりました。その授賞式には、駐日インド大使代理として、インド大使館二等書記官であるラム・アツパガー二氏にご臨席頂き、先に前田専學選考委員会委員長より審査報告が行われ、続いて当財団およびインド大使館より、それぞれ賞状と記念品とが末木博士に授与されました。

その後、同大使館内のビザホールに会場を移し、多数の来賓を迎えて、盛大な祝賀会が開催されました。

東方学院仏像彫刻講座

第八回研究会員作品展

東方学院の「仏像彫刻」講座を受講中の研究会員による作品展が、東京都千代田区にあるインド大使館のご協力を得て、当財団の主催により、同大使館一階講堂において十一月十三日（月）から同二十日（日）まで開催されました。

今回は、昨年より東方学院に開設された「宗教画」講座を受講中の研究会員諸氏による作品も併せて展示され、日頃の成果を披露することとなりました。

また、期間中の入場者数は千名を超える盛況ぶりであり、この分野への関心の高さが伺われました。

なお、この作品展は隔年で開催されているものです。



平成十八年 活動報告

ホームページ更新

当財団のホームページを全面的に更新いたしております。

（＊一部未完成です）

今後、研究機関として更なる情報の発信に努めるべく必要な更新を推進していく予定です。

記事に関するお問い合わせは、当財団事務局まで。



第七回 東方研究会・酬佛恩講合同講演会

十一月二十五日（土）、奈良市西ノ京にある法相宗大本山薬師寺の慈恩殿において、東方研究会・酬佛恩講合同講演会が開催されました。

当財団では、例年、実地調査を踏まえた着実な研究活動を推進するために、アジア諸国への留学生の派遣を推進いたしております。本講演会は、そのアジア諸国派遣留学生の帰朝報告を兼ねており、薬師寺内に設けられた、仏恩に酬いるべく世界各地に仏書の寄贈などを行うための集いである酬佛恩講様と合同で、薬師寺のご後援を得て行われているものです。

今回は、当財団の田辺和子研究員による、「タイへの留学経験に基づく「タイの人々に信仰されているジャータカ」と題する報告と、法華経の専門家として知られる、種智院大学名誉教授である苅谷定彦先生による、「法華経の心を求めて 常不軽菩薩の話」と題する、法華経に登場する常不軽菩薩についてのご講演とが、多くの参加者を集めて行われました。



研究会員の声 (敬称略)



赤井 士郎

東方学院に入学して八年

東方に入学した時、何故印度哲学を学ぶのかとよく質問された。それは、私がまだ現役で会社の社長だったからである。返事は、自分は仕事人間だったから退社したとき、迷うし、もつと広く世間を見る目を育てたいからと。さて三年前完全リタイアした今日、同じ質問があれば、解答は変わる。それは、印度哲学を学ぶことよって、「自分とは何ものか」ということが、少し考へられるようになり、毎日が楽しい」ということであろうか。

私は、この八年間、仏教入門から始まり、印度思想史を五年一貫して前田専學先生の講義を受けている。前期は前年までの総括で、ヴェーダとウパニッシュアッドを何回も拝聴してきた。内容が同じだから厭きないかと問はれるかもしれない。ところが、哲学というものは、ノウハウものと違って、個人の思考力の訓練でもあるから、年々受け方が違ってくるのである。それこそ自分を見詰めることにもなることでもあったと思う。前田先生は時々、注意して下さることは、「思い込み」である。観念の固定化する危険は、特に思想を独学する者が陥りやすい。

この塾に入ってからされる方でよくある疑問は、「何を信ずべきか」という宗教的情念を求められることである。先生のお答への代りに私がこの学院で得た答へは、思想とか、哲学を学ぶものは、「信仰」とは一応区別して入門しなければならぬ。当然、人の心を扱う学問だから個人の目標、到達点は信仰になつていくのが自然であるが、学院は、あくまで信仰は個人の世界と考へているようである。

最近前田先生から「共生」という言葉の意味の解説があった。いまは二十世紀のキーワードのようになってきているが、もとは仏教の概念から来たもので、椎尾弁匠師が使ったという。地球環境問題、中東紛争などに直面している今日、いわゆる原理主義、自我に固執する正義感などに混迷する世論をみると、改めて印度哲学を学ぶ必要を痛感するのである。



小野 俊彦

菊の香や 奈良には古き 仏達

私が東方学院で受講させて戴いているのは、「仏像彫刻の実技」という講座です。毎月第二土曜日午後一時〜午後五時に、荒川区東尾久の阿遮院で開講されています。先生は、西山多寿子先生(初級)と小田谷史弥先生(中級)の御二人ですが、いずれも故西村公朝先生のお弟子筋にあたられます。その意味では、「日本一の仏師」を師と仰いで研鑽させていただける教室です。

私は平成一一年から受講させていただいています。今年で八年生になった訳ですが、留年につぐ留年で、中々卒業出来そうにありません(正確に云うと卒業したくないという事でしょうか)。その理由としては、おおよそ四〇名の生徒さん方の雰囲気は挙げられます。年令は八〇才から二〇才迄、男女の組み合わせもバランスが良く、和気藹々、暖か味のある教室です。お互いに「助け合いの心」と「分ち合いの心」を持って、つましく、コツコツと楽しませていただけるからです。また、昨年の一二月には、二年に一度の作品展をインド大使館の御支援を戴いて開催する事ができました。これも故中村元先生のインド大使館との友誼の証と感謝しています。

ところで、西村公朝先生は「すべての自然物の中には、それぞれの仏がおられ、その姿を探求すること」が大切とおしえておられました。また、「どういってお姿をされているか、それを楽しみながら彫り出して来る」心構えを持ちなさいとも云っておられました。仏像は、如来・菩薩・明王・天部の四種類に分けられますが、いずれも「慈悲」を表わしておられますが、如来は「慈」の優しい愛情、菩薩は「悲」のやさしい愛情、明王は衆生を救う「必死」の形、天部は仏を邪魔するものと戦う形をあらわしているかと教えられました。

私は昨年の作品展には「秋篠寺の技芸天」三〇cmと「法隆寺の夢違い観音」五〇cmと「清涼寺の釈迦如来」五〇cmを出品させていただきました。いまだ未熟な状態で、「もう少し仕上げを丁寧にしたら良い」との声も多のですが、「遠くから見ると迫力のある事も大切なのだ」と負けおしみを云っています。いずれにしろ、それぞれの仏様が木の中から出てきて戴いたと感謝しております。関心をお持ちの皆様のお待ち致しております。

研究会員の声

(敬称略)



金田 静江

講義の受講に就いての感想をと云うことで、私の聴講しているお教室の現況を御報告いたします。

月曜日は午後六時より六時五十分迄、前田先生御担当の『インドの思想と文化』を受講しています。古代から近、現代に至るインドの思想、宗教について、前田先生編集の『インド思想史』をテキストとして甚だ端正で高度な講義を伺っています。その内容に就いては浅学非才の私の述べるところではありませんが、順番でテキストを読むことで予習をかかす事が出来ず、大変に勉強になっております。何時も変わらぬ先生のお人柄に触れて、魂の浄化を図らせて頂いております。

金曜日には奥住先生の『中論の思想』と『唯識説』に出ております。各クラスの聴講生は十二、三人で女性は三人です。中論の講義では竜樹の名著『中論頌』の唯一の梵語原典であるチャンドラキールティの注釈書『プラサンナパダー』を、奥住先生の和訳をテキストとして読んでいます。

中村先生の『空の論理』、『人類の知的遺産13 ナーガールジュナ』を頼りにしながら読んでいますが、『中論』の余りにも徹底した否定の論理に現実との乖離を考えて、質問すら出来なくなっています。

男性の中にはチベット語にも挑戦していらっしゃる方もあって、感服しています。

唯識の講義では世親著『三十頌』、護法等十大論師造、玄奘訳の『成唯識論』を一言一句読み進んでいます。が、馴染みのない漢語が多く、「述記」その他の解説本を片手に、煩瑣な理論に取り組んでいます。唯識無境から境識俱泯へ三大阿僧祇劫をかけての修行によって、輪廻の輪から飛び出せるかも知れないと思つて頑張っています。



木村 紫

何か新しいことをと思った四年前、法律を学んでいた頃、東方学院に漠然と憧れたことが頭に浮かびました。歳月は流れ、中村元先生も逝去されましたが、私は理屈っぽいからと選んだのが、「仏教論理学」講座でした。中村先生が訳されたダルムキールティの「論理学小論」の講読で、担当の林慶仁先生が、原文で読むと理解が深まり、面白いですよと時折口にされるので、夏休みにサンスクリットの文法書に目を通し、大胆にもテキストに取り組み始めました。後期授業の始まりが「それは四種ある」という簡単な文章だったことが、安易の上に大きな誤解を招いてしまいました。

翌年の七月最後の授業の帰り道、休暇中に原文講読の勉強会をしようという話が、不意に沸き起るや、すんなりまとまってしまう。最初は喫茶店でしましたが、東方学院の教室を拝借したい旨希望を出したところ、お許し頂きました。その後長期休暇の度に勉強会を行い、時には林先生もおいで下さり、その翌年「仏教論理学」には、原文講読の講座が増えました。また、昨年の夏の勉強会では、更なる理解のために、『俱舍論』を勉強してみたいという話で盛り上がり、『俱舍論』の講座開設の希望を連名で提出してみると、一週間後に開設内定のお返事を頂き、吃驚してしまいました。

研究会員である私達への温かなお心を、怖いもの知らずの質問や議論に辛抱強く付き合つて下さる林先生にも、常に手を差し伸べて下さる前田専學先生、三木様、事務局の皆様にもいつも感じずにはいられません。そして、何より忘れられないのは、教室使用許可のお礼を申し上げたときの「そのためにも父は東方学院を作ったのだから」という三木様のお言葉です。一度もお目にかかれなかつた中村先生にもお力添え頂いております。

只管考えているうちに何かしら頭にひらめくのは、正解か否かはさておき、えもいわれぬ快感ですが、こうして続けていられるのは、先生方や事務局の皆様のご尽力と、一緒に喧々譁々できる仲間のおかげと思っています。

皆様からの寄稿をお待ち申し上げております。

* 詳細は財団法人東方研究会事務局「東方だより」編集部までお問い合わせください。なお、誌面の都合上、掲載できない場合がございますので、予めご了承願います。

佐藤和二

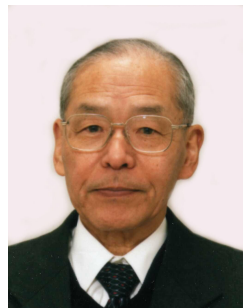
東方学院に通いはじめて十年になる。きつかけは、中村元先生の本にたびたび出てくるサンスクリット語への関心だった。水野善文先生のサンスクリット語初級に弟子入りさせていただいた。七十歳のときである。授業は高校(旧制)のドイツ語の時間を思わせ、老骨の血はひとしきり騒いだ。が、肝心のサンスクリット語は、わたしの前に言葉のジグソーパズルのように立ちはだかった。初めはこれが言語かととまどい、後にはこれぞ印欧語の祖と知った。記憶力の減退は言わずもがなである。辞書を百万遍繰るしか手立てはない。

石の上にもなんとやら、ひたすら受講をつづけた。いま、一介の老人が、その名さえ知らなかったインド哲学の講義に耳を傾け、格調高いサンスクリット文学の雅趣を味わっている。なんと贅沢な時間を享受させていただいていることか。一方、勉強には余得がある。若い頃、あるゲーテの詩に遭遇した。その内容は晦渋すぎた。サンスクリット・ドイツ語辞典を使うようになり、あの詩のなかにあつた世界霊、大我の霊といった用語は、インド聖典にみるブラフマンやマハートマンなど、サンスクリット語に関わるドイツ語からの重訳ではないかと思うようになった。もう一つある。現在、有賀弘紀先生のご指導を受けながら、カリーダーサの叙事詩「ラグヴァンシヤ」と格闘中である。ゲーテは同じ作者の戯曲「シヤクンタラー姫」に深く傾倒し、シヤクンタラーを讃える詩をも作つた。二つの作品はともにサンスクリット文学の最高峰と謳われる。ゲーテを傍らにおいて、インドの古典の世界に遊ぶなどとは思ひもよらないことであつた。

東方学院からの帰路、聖橋の上で夜景を眺めていると、ある儒学者の声が聞こえてくる。壮にして学べば老いても衰えず、老いて学べば死すとも朽ちずと。死んでも朽ちないものはあるのか、あるとしたら何か、と、自問しながら聖橋をわたっている。

研究会員の声

(敬称略)



千綿道人

信じる事が出来るものに巡り合えて

かねて念願であつた東方学院における仏教の勉強も六年目に入り、やっと信じる事が出来るものに巡り合えた感じがしており幸せに思っています。

私が第二次世界大戦の敗戦を迎えたのは小学校(国民学校)四年の時、神国日本は負けるはずはないと徹底的に教え込まれていたところが完膚なきまでに敗れ、その後敗戦の大混乱を経験し、また占領軍政により古いものは封建的なものとの風潮が蔓延していました。そして、父、祖父を見送りその葬儀では故人の遺徳などには全く触れる事もなくただ読経のみに終始する所謂葬式仏教を見ながら、高校二年のときに亡くなった父が学生時代から取り組んでいた禅には関心を持ちつつも厳しい社会人生活の中で何か信じるものに出会いたいとの気持ちは強く持っていました。

そして、三十五年間の第一の職場のあと第二の職場に就くとともに東大仏教青年会に入会し約八年間西嶋和夫老師の「座禅と正法眼蔵を学ぶ会」で指導を頂き、そこで東方学院の存在を知り、平成十四年四月に六十六歳で仕事を離れると共に直ちに入学してこれまでに次のような講座を受講してきました。

- 平成十四年 仏教入門
- 平成十五年、十六年 碧巖録 仏教聖典入門 アジア宗教文化論 大乘涅槃経
- 平成十七年、十八年 碧巖録 仏教聖典入門 アジア宗教文化論 大乘涅槃経

これらの講座を通じて学んだ事は凡そ次のようなことと理解しています。釈迦の教えとは、人間の生きる道即ち法(ダルマ)を説いたものである。法(ダルマ)とは人生を苦と見、その苦しみから脱し迷いの生存を断ち切つて自由の境地に入る、それが解脱であり涅槃である。そのために苦をもたらず要素とそれがどのような関係を持つかが即ち縁起を明らかにした。そして、涅槃に入るためには正見、正思、正語、などの八つの正しい道、即ち八正道を実践する事こそが肝要である。この真理を聞いたときには、この法こそは將に信じる事が出来る正しい道だと胸を打たれ真に有難く思いました。

さらに、この講座を聞く事が出来る場、東方学院が仏教学、インド思想、比較思想の世界的な権威であられた中村元博士によつて創設されたことは真に有難く、博士の理念である真に学を究め、道を求めたい人々のための学院であり、学歴、年齢、職業、国籍、性別などに捉われないことは立派に行われてきています。

そして、前田専學学院長をはじめ御指導にあたられる先生方は皆この理念を真摯に実施してきておられ私の未熟な質問にも実に丁寧に回答いただいております。

今後とも、この学院で真剣に学んでいきたいと考え、そして学ぶ事が出来ることを幸せに感じています。

財団法人東方研究会からのお知らせ

会員募集のお知らせ

普通会員（年会費 五千元）
 普通会員の皆様には、定期刊行物『東方』の他、当財団主催の各種行事及び会合等に関するご案内をお送りいたしております。

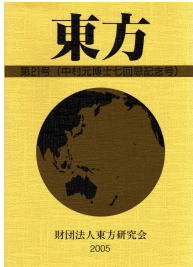
賛助会員（賛助会費 一口／一万円）
 当財団では、賛助会員を募集いたしております。当財団の趣旨にご賛同頂ける皆様からのご支援をお待ち申し上げております。

*去る三月一日に行われた理事会・評議員会に於いて、平成一九年新年度より普通会費を七千円に増額し、併せて維持会費（一口／五万円）を新設することが議決されました。あらためてお願いの文書を申し上げますが、なにとぞよろしくご了解下さい。当財団の趣旨にご賛同いただき、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

『東方』第二十一号、刊行

当財団の機関誌『東方』の最新号が刊行されました。今回は中村元博士七回忌記念号と題し、各種論考・講演録及び連載記事の他、中村元博士の思想と業績をめぐる日印仏教哲学セミナーの関連記事を掲載いたしました。

*本誌は普通会員の皆様に無料にて配布いたしております。いまだ当財団の普通会員でない方で、本誌の入手をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。



*第二十一号
 近日刊行予定

訃報 平成十八年十月四日（水）

中根專正師（曹洞宗福昌寺東堂）

同師は長年にわたり東方学院の講師をお勤め下さり、当財団に多大なるご助力を賜りました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

なお、同師のご逝去に伴い「坐禅実習と提唱」講座は閉講となりました。

東方学院からのお知らせ

「東方学院の手引き」配布開始

東方学院で開講されている各講座の内容・受講料・申し込み方法などを記載した、二〇〇七年度「東方学院の手引き」の配布を開始いたしました（「手引き」は無料です）。



事務局にお越し頂ければ直接お渡しいたします。

また、郵送をご希望の場合、「手引き希望」と書いた封筒に、二百円分の切手（郵送料・実費）と「手引き」をご希望の方の郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入した紙を同封の上、財団法人東方研究会内東方学院事務局宛にお送りください。「手引き」をお送りいたします。

*個人情報「手引き」送付のためだけに使用いたします。

交通のご案内

鉄道各線の最寄駅

【JR東日本】

中央線・総武線 御茶ノ水駅

【つくばエクスプレス】

秋葉原駅

【東京メトロ】

銀座線 末広町駅

千代田線 新御茶ノ水駅

丸の内線 御茶ノ水駅

当財団のあるビルは神田明神の正面参道に面しております。なお、駐車場の用意はございません。予めご了承ください。



（財）東方研究会 / 東方学院
 延寿お茶の水ビル 4階

編集

財団法人東方研究会事務局
 「東方だより」編集部